

国せきのかべ

奈良市立富雄第三中学校 1年 安木 陽香

近年、コロナ禍が終わり外国人観光客が急激に増えた。そんなインバウンドによる日本国内の国際化に、私は少し恐怖を感じていた。

なぜそう感じたのか、理由は二つある。一つ目は、当たり前だが日本人と外見が違うからだ。身長も声も、私より大きくなにかされるのではないかと思ってしまう。二つ目は、会話の調子からして強気そうな性格をしているからだ。改めて理由を考えてみると、「外国人だから」という理由でかべを作っていた自分がいた。

そんな時、私が通っている英語教室にアメリカ人の観光客が三人とまりに来ていた。授業中にその三人と交流する機会があり、私は少しビクビクしながらも会話をはじめた。すると、

「私は日本が大好きです！」と三人とも口をそろえて言っていることに、びっくりした。ちゃんと私の話も聞いてくれて、確かに強気で元気な性格ではあるが、その分リアクションが大きくて話していてとても楽しかった。その時勧めたキャンディーも後日食べてくれたらしく、想像していたイメージと違い拍子抜けした感じだった。

この経験から、外国から来る留学生に日本語を教える日本語学校で働いている母親に、生徒たちの様子を聞くようになった。話によると、

「私は日本ですしについて学び母国でもすし屋を開店して、日本食のすばらしさを広めたいです。」という人や、

「私は日本で会社につとめて、日本でくらしていきたいです。」などといった、夢をもつ外国人たちがたくさん集まっているらしかった。みんな素直で、夢を実現できるとは限らないが、日本に来て追いかけている行動力は、日本人にはない大胆さがあるすばらしいと思った。

私はこの二つの出来事から、外国人に対する恐怖は薄れつつある。でも、心にしみついていたイメージはなかなか消えなかった。

ある日、電車でアラブ系の女性が端の方に座っている所を見た。その時、怖いのは自分だけでなく、相手の方が怖いのではないかと気づいたのだ。私達は日本にいる限り、同じ国せきの似たような外見の人ばかりが集い、当たり前のようにその存在が受け入れられている。しかし、外国人にとっては違う国せきでも言葉の通じない人達にかこまれて私のような人に受け入れられないことだってある。怖いのはおたがい同じだったのだ。

だとすると、私達が怖がり外国人を受け入れなければ「国せきのかべ」はいつまでもなくならないうままだ。だから私は、こわいという思いがあっても見た目や国せきによって判断せず、まず外国人観光客の前にその人を受け入れることから始めようと思う。外国人に対して恐怖を感じている人は、私だけでなく、少なからずいると思う。怖いと思うことは悪いことではないし、仕方がない面もあると思うが、それを理由にけむたがったりせず、一人の人として見てみてはどうだろうか。そうすればきっと、国せきのかべをこえて安心してすごせる社会が実現できるだろう。